

普及項目	増殖試験
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	アサリ
対象海域	八代海

覆砂漁場の初期アサリ稚貝着底状況調査及び管理手法指導

県南広域本部水産課・梅山 昌伸

【背景・目的】

不知火地区のアサリ資源は、平成 20 年及び 23 年の大量降雨、平成 21～23 年のホトトギスガイの異常発生（漁場の占有）により、当該海域のアサリ資源は壊滅的打撃を受け、再生産機構が崩壊してしまった（図 1）。県は同海域のアサリ資源復活のため平成 30 年度から 5 か年間の水産基盤整備計画を策定し、購入砂による覆砂事業を開始した。

そこで、従前より鏡町漁協、八代漁協（郡築・八千把地区）地先干潟で実施されている被覆網を、平成 30 年度覆砂漁場にも設置することで、より高度な漁場管理によるアサリ資源の回復を目的とした。

【普及の内容・特徴】

（1）被覆網等設置指導

① 竜北漁協（竜北地区）：平成 30 年 11 月 9 日に、固定用のロープを潮に対して平行に張り、ケアシェルをロープの左右に配置し固定した。また、被覆網については、設置に相当と思われる場所を選定し、後日の設置指導とした。

② 八代漁協（金剛地区）：平成 31 年 3 月 22 日に、アサリの着底状況を確認しながら設置した（ケアシェルの設置予定はない）。

（2）稚貝着底状況調査：平成 31 年 3 月 22 日に、金剛地区の覆砂漁場において坪刈り調査を実施した。調査点は図 2 のとおりで、①～④は出現個体数のみ、⑤～⑨は出現個体数と殻長を測定した。坪刈りには 10×10cm の方形枠を用い、表面から 10cm 程度を採泥し 1.2 mm メッシュで篩い試料とした。

【成果・活用】

（1）被覆網設置指導：竜北地区では、2m×50m×4 枚の被覆網を事前に決定した場所に設置した。アサリの着底が確認できたが、ホトトギスガイのマット形成が顕著に見受けられ、今後の管理において「耕うん」との組み合わせが重要と考えられる。

金剛地区については、2m×50m×6 枚の被覆網を（2）の調査時に確認したところ良好な状態であったが、こちらもホトトギスガイのマットが若干見られ、今後に不安が残る結果で、竜北地区と同様に「耕うん」の実施が必要と思われる。

（2）稚貝着底状況調査：金剛地区の調査点あたり出現個数の最大は 10,600 個/m²、最小が 700 個/m²で、漁場全体を平均して 2,278 個/m²であった。殻長のヒストグラムは図 3 のとおりで、殻長 5mm にピークが見られ、成長の早さが確認された。

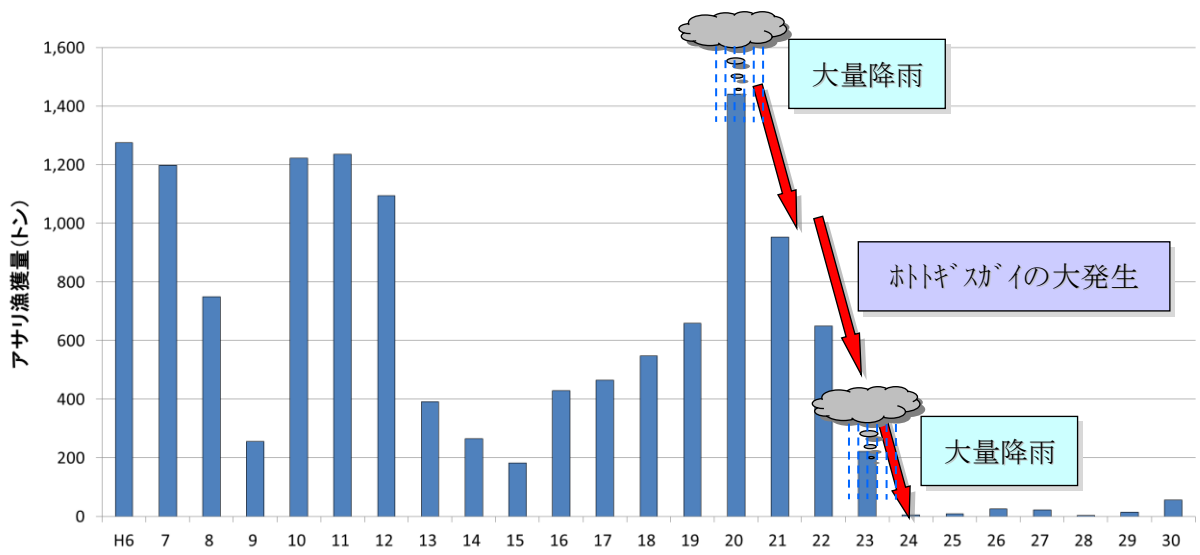


図1 不知火地区のアサリ漁獲量の推移

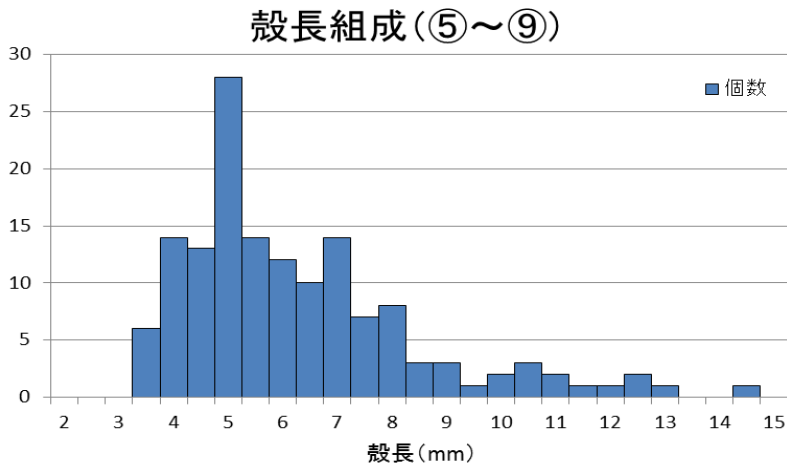


図3 出現個体のヒストグラム

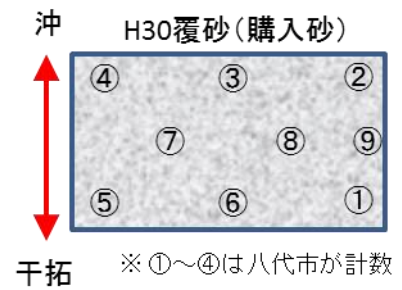


図2 調査点



図4 被覆網設置状況



図5 出現アサリ稚貝